

## 令和7年7月の解説（週間天気予報）

### 【7月の天候状況】

上旬は、北・東・西日本では、湿った空気の影響で大雨となった所もあったが、西日本日本海側を中心に太平洋高気圧に覆われて、この時期としては晴れの日が多かった。このため、旬降水量は北・東・西日本日本海側と北・西日本太平洋側でかなり少なく、東日本太平洋側で少なかった。特に東日本日本海側では平年比6%、西日本日本海側では平年比3%（2000年と並ぶ1位タイ）と、1946年以降、7月上旬として降水量の少ない方からの極値を更新した。また、旬間日照時間は、北・東・西日本太平洋側と東・西日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側で多かった。特に西日本日本海側では、平年比247%と1961年の統計開始以降、7月上旬として最も多照となった。東海地方では4日頃、梅雨明けしたとみられる（速報値）。沖縄・奄美では、期間のはじめは、太平洋高気圧に覆われて晴れの日があったが、その後は沖縄地方では、台風第4号や湿った空気などの影響で曇りや雨の日が多かった。このため、旬降水量は沖縄地方では多かった。また、旬間日照時間は、沖縄地方では少なかったが、奄美地方では、台風第4号や湿った空気の影響を受けにくく多かった。旬平均気温は、偏西風が平年よりも大きく北を流れたため暖かい空気に覆われやすかった北・東・西日本でかなり高かった。旬平均気温平年差は、北日本で+5.2℃、東日本で+3.9℃、西日本で+3.7℃となり、1946年の統計開始以降、7月上旬として1位の高温となった。

中旬は、北日本では、東北地方を中心に前線や湿った空気の影響を受けにくかったほか、太平洋高気圧の北への張り出しが強くなり、この時期としては晴れの日が多かった。このため、旬間日照時間は、北日本日本海側ではかなり多く、北日本太平洋側では多かった。また、旬降水量は、北日本太平洋側では少なかった。東・西日本では、太平洋側を中心に太平洋高気圧の縁を回る湿った空気の流れ込みや台風第5号の影響で曇りや雨の日があったが、東日本日本海側を中心に、前線や湿った空気の影響を受けにくく、この時期としては晴れの日が多かった。このため、東日本日本海側では、旬降水量はかなり少なく、旬間日照時間はかなり多かった。また、西日本日本海側と西日本太平洋側では、旬間日照時間は多かった。一方、東・西日本太平洋側では、湿った空気により大雨となった所があり、旬降水量は多かった。なお、関東甲信地方、北陸地方と東北南部では18日頃に、東北北部では19日頃に梅雨明けしたとみられる（速報値）。沖縄・奄美では、熱帯低気圧や湿った空気などの影響で曇りや雨の日が多かった。このため、旬降水量は多く、旬間日照時間はかなり少なかった。気温は、北・東・西日本では、暖かい空気に覆われやすかったことに加え、北日本を中心に南からの暖かい空気の流れ込みもあり、北日本でかなり高く、東・西日本で高かった。一方、沖縄・奄美では平年並だったが、湿った空気の影響で低い所もあった。

下旬は、偏西風が平年よりも大きく北に偏って流れ、また、太平洋高気圧が本州付近に張り出したため、北・東・西日本は暖かい空気に覆われるとともに晴れて顕著に気温が高い日が多く、日最高気温35℃以上の猛暑日が続いた所も多かった。30日には兵庫県丹波市柏原で日最高気温が41.2℃となり、全国の気象台等とアメダスにおける観測史上1位の高温を記録した。一方、沖縄・奄美では台風第7号、8号や湿った空気の影響を受けやすかった。このため、旬平均気温は北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美では低かった。旬平均気温平年差は、北日本で+4.7℃で、1946年の統計開始以降、7月下旬として1位の高温となった。旬降水量は、

北・東日本太平洋側と東・西日本日本海側でかなり少なく、北日本日本海側と西日本太平洋側で少なかった。一方、沖縄・奄美ではかなり多かった。旬降水量平年比は、東日本日本海側で0%、西日本日本海側で1%で、1946年の統計開始以降で7月下旬として1位タイの少雨となった。旬間日照時間は、東・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側で多かった。一方、沖縄・奄美ではかなり少なかった。旬間日照時間平年比は、東・西日本日本海側と東日本太平洋側で、それぞれ198%、178%、179%となり、1961年の統計開始以降で7月下旬として1位の多照となった。

### 【7月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3~7日目平均)は、例年値(注)より8ポイント高い81%となった。地方別の適中率では、沖縄地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値を上回った。

最高気温の予報誤差(2~7日目平均)は、全国平均で例年値より0.3℃小さい1.9℃で、全国的に例年値を下回った。また、最低気温の予報誤差(2~7日目平均)は、全国平均で例年値と同じ1.4℃で、東北、関東甲信、中国、四国、九州北部、九州南部、沖縄地方では例年値を上回ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を下回った。

(注) 例年の値は、2015年~2024年の平均値です。

### 【9月の週間天気予報の利用にあたって】

9月は、平年では台風の接近数や上陸数が最も多くなる時期です。また、8月に比べ低気圧や前線が日本付近を通過しやすく、広い範囲に大雨を降らせることがあります。一方、太平洋高気圧の張り出しが強い場合は、残暑が厳しく、引き続き熱中症予報など健康管理に留意する必要があります。週間天気予報等の最新情報で、早めの対策を取るなどしてください。